

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q - 6 0 （HCV、標準予防策）

C型肝炎保菌の通常入園児童についての、集団保育に置ける配慮事項
（特にプールやトイレ座面の共有、玩具をなめることによる唾液付着）
・ 1歳1ヶ月女兒と、2歳9ヶ月男児の兄妹
（感染状況）血液感染による保菌、未発症）

A - 6 0

C型肝炎ウイルスの主たる感染源は血液であり、健常皮膚からの感染や唾液からの感染は決してありませんので、このようなご心配はいたしません。他の入園児童と区別して対応する必要はありません。

ただし、何らかの原因で出血した際には、ウイルスが含まれていることを念頭に入れ、血液の処理を行うことが必要です。

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q - 6 1 (HCV、老人保健施設における対応、診断書、入浴サービス)

1. 診断書について

1) 診断書の有効期限はあるのか？あれば何年ごとに提出してもらったらよいか？

2) 感染症の検査項目は、どのようなものを調べたらよいか具体的に教えてください。

「診断書」とは医師の健康診断の審査表です。これから、施設独自の健康診断を作成する予定でいます。入浴サービスを行っているので、感染症の項目をいれたいと考えています。そのための、一度調べればよいのか？それとも、毎年新たに検査していただいたほうが良いのでしょうか？

2. 入浴サービスについて

1) HCVの利用者について

2) HCVの利用者に、带状疱疹があり水疱がつぶれている状態で他者とは別に入浴しているが、傷が治ったら一緒の入浴は可能か？

3) 今の状態で感染の恐れはないか？

4) 介護者側の注意点と浴槽や床の消毒は？

5) 一般的に感染症を持っている人の入浴の注意点と浴槽、椅子、洗面器、床の消毒方法を感染症別に教えて下さい。

6) 感染症利用者と他利用者と一緒の入浴は可能か？

A - 6 1

1. 診断書について

1) 診断書は発行時の診断であり、有効期限はありません。入所者、サービスを受ける人の医療に関しては、主治医がいると思いますので、なにか重大な変化があったときに連絡をもらえばいいでしょう。それよりむしろ急変時の搬送先をはっきりさせておくことが重要です。

2) 入院、入所時には、HB抗原、HCV抗体、梅毒反応を一般には調べています。一度調べれば、以降検査は不要です。

これらの検査は、針刺し事故のときとか、出血時の対応のために一応調べていますが、血液には、その他、既知、未知の感染性微生物がありますので、血液はすべて危険と考え、対応すべきです。

2. 入浴サービスについて

多数の人の一緒の入浴は、日本独特の習慣で、あまり衛生的ではありません。しかし、入所者が強く希望するならば、仕方ないでしょう。

公衆浴場における衛生等管理要領（施設における浴場は小規模のため対象外ですが）を参考にしてください。これは条例のため、各地で異なっています。各保健所より指導があります。

すくなくとも施設では、24時間風呂とか循環式の風呂はレジオネラその他の微生物を考えると、不適です。また、大浴場に多数の人を入れるのも衛生的ではありません。湯には必ず、細菌が存在します。

1) HCV感染者の利用について

外傷、出血がなければ問題ありません。そもそも温泉場、大衆浴場では皆そのまま入浴しています。

2) 外傷、带状疱疹があり水疱がつぶれている状態の患者は共同浴場に一緒にいれるべきではありません。これはHCVの有無にかかわらずです。他の人に感染させる危険より、その皮膚疾患の患者が湯より感染する危険が高いからです。もちろん、最後にいれるのも最も湯が汚染された状態ですので危険です。これらの方には必要に応じて、シャワー浴にするべきです。傷がなおれば、入浴可能です。

3) 状態によりますが、带状疱疹があり水疱がつぶれている状態では、本人に感染の危険、悪化の危険があります。清潔な湯を使用すべきです。

4) 5) 高齢者の入浴に際し介護者が最も気をつけなければいけないことは、入浴者の事故防止です。具合が悪くなり、溺死しそうになることがありますので十分に注意してください。

浴場の湯は半年に一度レジオネラの菌検査が必要です。

浴場によっては排出口より塩素をいれ、滅菌しているものもあります。

施設の浴槽で最も大切なことは、頻回に湯を入れ替えることです。1日2回は湯を落とし、交換すべきです。

浴槽や床、椅子の消毒はブラシに家庭用あるいは業務用の浴槽用合成洗剤（界面活性剤）をつけ、よく洗うことです。タオルなどは次亜塩素酸ナトリウム（ピューラックス®など）で消毒してください。感染症

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

別に対処することは不可能です。一般の大衆浴場を考えていただければわかると思います。

6) 利用者に外傷、皮膚疾患、出血がなければ一緒の入浴は可能です。

外傷、皮膚疾患、出血などがある人には、個室浴（湯を一人一人変える）、シャワー浴を選択してください。

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q - 6 2 (HCV)

C型肝炎に対する注射器の扱いについてお尋ねします。当院では一般の注射器は使用後は洗浄しオートクレーブで消毒し再使用しています。C型肝炎の場合も同様に一般患者と区別なしにしていました。

このような場合、C型肝炎を肝炎以外の患者に感染させる危険はあるのでしょうか。もしあるとすればどう対応してよいか方法をお教えてください。

A - 6 2

医療用器具の滅菌、消毒には、使用後流水で十分に洗浄し、血液中のタンパクの除去を行ってから滅菌、消毒を行わないと、感染性が残る場合があります。オートクレーブにて加熱滅菌する場合も、十分な洗浄が必要となります。そのような場合、医療従事者がC型肝炎ウイルス陽性血液に汚染される危険性も出てきます。針刺し事故等の後、約1.8%前後の医療従事者がC型肝炎ウイルスに感染すると報告されています。C型肝炎ウイルス陽性者に限らず、血液は感染性があるものと考え、注射器など血液が直接、多量に接する医療器具はディスposable製品を利用することを推奨致します。